

## 平成30年 3学期始業式 講話

おはようございます。今日も寒いですね、でもみんなの元気な歌声を聴くと、この体育館の温度が5度ぐらい上がったように感じます。終業式では交通事故に遭うことが無いようにというお話もしましたが、長い冬休みを終えて、今日こうして元気なみなさんに会えてとても嬉しく思います。

ところで、年明けの5日の新聞に『小学生がなりたい職業のベスト10』が載っていました。男の子の1位は学者・博士、2位は野球選手、3位はサッカー選手でした。女の子の1位は食べ物屋さん、2位は看護師さん、3位は保育園幼稚園の先生でした。皆さんはどうですか。校長先生は小学4年生の頃、科学者になりたいと思っていました。

子どもの頃にあこがれた仕事に就くことができる人はそんなに多くはありません。また頑張っあこがれの仕事についてみたけど、やってみるととても大変で、思ったほどいいことばかりではない、辛いことの方が多いということはよくあることです。また、大人になるまでにいろんなことを経験するうちに、なりたい仕事も変わってきます。そして、特になりたいと思っていなかった仕事でも、我慢してやるうちにどんどん仕事が上手になったり、人から頼りにされたり、またやり遂げた時の喜びなどで、その仕事が好きになるものです。自分の夢とは違っていても、その仕事に自分の力を活かして、人の役に立つ喜びをエネルギーとして頑張っていけるのだと思います。

さて、生きるということは、よく山登りにたとえられます。自分の目指す夢、これを山とすれば、私たちは遥かな頂に立った時の喜びを想像しながら登ります。しかし、頂ばかりを見ては登れません。まずは今踏み出す足もとをしっかりと見て、確実な一步を踏み出さなければころんで怪我をします。背負う荷物が重く、急な登りに息が切れてもうやめたくなくなります。でも焦らずにまわりの景色や鳥の声を聞きながら少し休みましょう。そうしてまた一步一步確実に歩みだすことを繰り返していると、林を抜けて風景が開けてきます。ふと見上げるとあんなに遠くにあった頂がずいぶん近くに見えます。青い空や高山植物の美しさを楽しみながら、また一步一步踏み出します。後ろから追い抜いていく人もいますが、競争ではありません。気持ちよくあいさつしてマイペースで登りましょう。そうすればいつか必ず頂に立てます。でもようやく頂に着いても雲の中で、素晴らしい景色は見えないかもしれません。それに頂は寒くて長くはとどまれません。それでも登り終えてた人が必ず手に入れるものがあります。それは「やり遂げた、頑張った!」という満足感です。後はまた重い荷物を持って一步一步、登る時以上に気をつけて降りていかねばなりません。頂に何かがあるわけではないのです。登っていく途中そのものが登山なのです。

夢というものは、そこにたどり着くための努力や苦勞を通して、私たちに様々なことを体験させ、また教え、成長させてくれます。皆さんもしっかり夢を持って確かな一步を踏み出してください。これで先生の話が終わります。